



# RISSHO UNIVERSITY NEWS

April, 2023 Vol.155



望月 兼雄 理事長

寺尾 英智 学長

鳥飼 椋平  
(地球環境科学部卒)  
カマタマーレ讃岐 (J3)

竹村 俊二  
(地球環境科学部卒)  
カマタマーレ讃岐 (J3)

井上 竜太  
(地球環境科学部卒)  
ツエーゲン金沢 (J2)

吉田 新  
(地球環境科学部卒)  
湘南ベルマーレ (J1)

平松 航  
(地球環境科学部卒)  
栃木 SC (J2)

深港 壮一郎  
(地球環境科学部卒)  
町田ゼルビア (J2)

## サッカー部

# 6人の卒業生がJリーグの舞台へ

### Topics

- 3 150周年記念をテーマにした卒論紹介
- 9 新コラム 教職教育センターの取り組み紹介
- 6 学部あれこれがリニューアル! 3学部を紹介
- 13 付属・準付属校の生徒が大躍進
- 7 プロ野球の舞台へ! 奈良間選手紹介
- 16 映画製作部の活動紹介

### Location

品川キャンパス  
〒141-8602 東京都品川区大崎 4-2-16 / Tel.03-3492-5250  
熊谷キャンパス  
〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700 / Tel.048-536-6010

### Website

学園新聞  
Web版は  
こちらから



# 開校150周年 記念事業紹介

本学園は2022年に開校150周年を迎え、  
様々な記念事業が行われてきました。  
その一部をご紹介します。

## 150周年記念事業募金のお願い

本学園では、記念すべき年を祝すとともに伝統を継承し、校友会会員はじめ広くステークホルダーの皆様のご期待に応えるため、開校150周年記念事業を実施しております。

昨今の厳しい経済情勢が続いておりますが、皆さまには「学校法人立正大学学園 開校150周年記念事業」の趣旨をご理解いただき、本学園学生・生徒に更なる学びの場を提供する取り組みに対して、今後とも一層のご理解あるご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



募金要項や  
詳細はこちら

募集期間

2023年10月末日まで

## 開校150周年記念シンポジウム 「石橋湛山と建学の精神」

2022年10月13日、品川キャンパスの石橋湛山記念講堂にて開校150周年記念シンポジウムを開催しました。立正の精神に学ぶことを建学の理念に掲げる本学園において、これをより深く、わかりやすく、多くの人々に本学園が目指してきたもの、今後目指していくものを指し示す機会として企画されたシンポジウムです。

会場には一般のみなさんをはじめ卒業生、宗門関係者や学生等が来場したほか、ウェブでのライブ配信を実施しました。

シンポジウムは望月兼雄理事長の挨拶に続き、登壇者ならびにコーディネーターが紹介され、コーディネーターの早川誠法法学部長より、建学の精神の成り立ちや目指す方向性が示された後、石橋湛山の生い立ちについて、在学生・研究者として石橋湛山先生に触れてきた渡邊實陽特別荣誉教授によるエピソードや、石橋省三先生による石橋湛山の教育論と経営論、人としての石橋湛山にまつわるエピソードが披露されま

した。また、渡邊先生からは開校150周年にふさわしく、立正精神についての貴重な話を聞くことができました。

最後に寺尾英智学長より、現在の本学園と建学の精神について、今後のビジョンを示しつつ思いや方針が述べられ、シンポジウムは盛況のうちに幕を閉じました。

学園が開校150周年を迎えた2022年は、日蓮聖人の御降誕より801年目となる新たな節目であり、石橋湛山先生の没後50年という節目でもありました。

大学が掲げる建学の精神は、日蓮聖人が社会に貢献する生き方を実践するために掲げた「三つの誓い」を、石橋湛山先生が若者たちに伝えるよう言い換えたものです。今回のシンポジウムが参加頂きましたみなさまにとって、本学園の歴史に触れ、現在を知り、未来を見据える契機となれば幸いです。



## 第3回 立正大学英語スピーチコンテスト -Risho Voices-

国際交流センターが企画・運営を行うこのコンテストは今年で3回目を迎え、今回は150周年記念事業の一環として、2022年11月12日に品川キャンパスにて開催しました。

今回は大学の部（8名）の発表に加えて、初めて高校の部（1名）を実施し「教育」「ビジネス」「人種差別」「美の基準」「障がい者スポーツ」などについて、学生・生徒ならではの視点によるスピーチが繰り広げられました。

大学の部第1位にはWU WANYINGさん（経済学研究科修士1年）、第2位には齊藤一益さん（文学部3年）、第3位には藤井菜緒さん（社会福祉学部3年）が選出されたほか、高校の部に出場した信永果歩さん（立正高校2年）には敢闘賞が授与されました。

また、150周年記念企画として「海外・国際交流経験から学んだこと」と題したトークセッションを、海外留学や多数の著名人に英語でインタビュー経験のあるタレントの関根麻里さん、高橋拓歩さん（2015年文学部文学科卒業）、菊池奏江さん（2019年文学部哲学科卒業）の3名をゲストスピーカーに迎え行いました。

観客からは、「ゲストスピーカーの留学体験談を聞いて、留学してみたいと思った」「国際的な分野で活躍している方のお話を聞く機会がなかったので、貴重な時間になった」などの感想が寄せられました。

※学年は2022年度時点の学年



コンテスト映像は  
こちら

## 開校150周年記念ツアー 「バスで巡る日蓮聖人と立正大学の起源」

開校150周年記念ツアーは今年度2回開催しており、第1弾は山梨平和ミュージアムに併設されている石橋湛山記念館を見学し、宗祖日蓮聖人棲神の霊地である総本山山延山久遠寺を参拝するバスツアー、第2弾は国内最古の路線の一つ高崎線（上野-熊谷間）と、創立123周年を迎える秩父鉄道（熊谷-三峰口間）で、学生・生徒や企業・地域とをコラボでつなぐ鉄道ツアーを、それぞれ開催しました。

今回実施された第3弾では、立正大学発祥の地である飯高寺（飯高檀林）、日蓮聖人が立教開宗の第一声をあげた清澄寺、日蓮聖人御降誕の聖地誕生寺などを巡るバスツアーです。

当日は天候にも恵まれ、道中は添乗頂きました日蓮宗僧侶によるコースにちなんだ講話や、仏教にまつわるエピソードが紹介され、参加者は興味深く耳を傾けていました。はじめに、立正大学発祥の地である飯高寺を訪れ、檀林の成り立ちや当時の様子などが説明されました。続いて清澄寺へ移動し、精進料理の昼食を頂いた後、立教開宗の地である当地の由緒をご説明頂き、全員で日蓮聖人が初めてお題目を唱えた旭が森に上り、お題目を唱えました。最後に日蓮聖人生誕の地である誕生寺を訪れ、聖人生誕にまつわる3つのエピソードを聞くことができました。また、配布した「懺悔カード」を誕生水に浸し、お題目を唱える体験プログラムも行われました。

各寺ではツアー参加者のために御開帳が行われるなど、普段の参拝とは異なるプログラムを体験することができた参加者からは、機会があればまた参加したい、との声が多く聞かれました。



ツアーの  
ダイジェスト映像  
はこちら

# 卒業論文のテーマは「150周年事業」

本学社会福祉学部子ども教育福祉学科の山田修平ゼミに所属する、荒木駿太さんと池田理彩さん(取材当時4年生)は、開校150周年記念事業を卒業論文のテーマに選びました。このような周年事業をテーマとした論文は珍しく、

社会福祉学部で実施された「学内を150周年記念アートで飾ろう」というイベントを軸として参加者アンケート調査から分かったことを基に卒業論文を仕上げました。今回は、執筆されたお二人にインタビューをしました。



山田先生研究室にて(左:荒木さん 真ん中:山田先生 右:池田さん)

## なぜ、卒業論文のテーマに「開校150周年記念事業」を選びましたか

**荒木:**きっかけは山田先生からの提案でしたが、開校150周年の時に在学できたことや自分自身もお祭りごとが好きだったことが理由です。また、コロナ禍で2、3年生の大学生活を送れなかったので、大学生活の思い出の一つにできればと考えました。

**池田:**私は元々「鑑賞」ということをテーマに書こうとしていたので、この周年事業と絡めて書いてみたら先生から助言をいただき、決めました。イベントを運営することにも興味があったので、この機会にやってみよう!と思い、書くことにしました。



卒業論文について話す二人

## 執筆にあたり大変だったことはありますか

**荒木:**実施にあたり、後輩の授業へ出かけて行って手伝ってくれる学生を探したり、自分の授業と並行して準備することが多くあったことが大変でした。

**池田:**新型コロナウイルスの影響で思い描いていた大学生活を送れなかったこともあり、1、2年生の後輩たちとの関わりが全くありませんでした。私は自分から会話することが得意ではないので、違う学年の学生と関係を築き上げることに苦心しました。今振り返れば、たくさんコミュニケーションを取れたことが大きな成果です。

## 今回、調査や分析からどのようなことがわかりましたか

**荒木:**実施前アンケートでは、開校150周年を自分事として捉えていなかった学生が多かったのですが、実際にイベントに参加してアンケートに回答してもらうと、自分事として捉える学生が増えました。この結果から、主体的に参加することで意識変化があることがわかりました。今後、自分で何かを企画する際には、今回の研究を生かし計画していきたいと思っています。

**池田:**イベントを実施するまでは、今年で開校150周年であることすら知らない学生も多く、私もその一人でした。イベントを通して、150周年の節目に学生でいられることがとても貴重であると感じることがわかりました。改めて、イベントを実施して良かったと思いました。



イベントで幼稚園生が作成し、デザインを1つにまとめた150周年ステッカーのデザイン

## 調査や分析から見た課題はありますか

**荒木:**学生が主となりイベントを運営していくことの難しさです。今回のイベントのきっかけが先生によるものでしたので、学生はサポートをする立場でした。しかし、今後は学生主導でイベントを企画・実施することで、より自分の事としてイベントを感じることができ、主催者や参加者にとっても、満足

度の高いイベントになるのではないかなと思います。

**池田:**今回のイベントでは多くのアート作品を制作しました。とても素敵な作品だったので、他学部の学生や保護者、地域の方にも見てもらう機会を設けられたら良かったと思います。SNSを活用して作品を披露したり、ポスターでの掲示など手段も考えています。より多くの人を巻き込むことができれば、地域や企業とも連携した企画も行うことができると思いました。



イベントで学生が制作した小瓶アート

## 今後、150周年記念事業でやりたい事はありますか

**荒木:**コロナ禍で多くの制限がありますので難しい面もあると思いますが、外部の方を招いたイベントを行いたいと思います。子どもたちや地域の方にも大学を身近に感じてもらう良い機会だと思うので、交流も兼ねたイベントができたら嬉しいです。

**池田:**今回のイベントを、参加者の方に楽しいと感じてもらえたことが150周年を自分事に捉えることに繋がったのではないかと考えています。今後新たに行う周年事業でも、参加する人全員が楽しい!と思えるイベントにできたらと思います。



# 先生に聞OSHiete!

きたざわ としゆき  
北沢 俊幸 先生

地球環境科学部  
環境システム学科

## 学生とともに切磋琢磨しながら研究を 地形・地層から環境変化や災害を読み解く



### Q 北沢先生が大学の教員になったきっかけは？

立正大学に来る前は、日本原子力研究開発機構という所におり、原子力発電で生じる高レベル放射性廃棄物の地層処分（地下300mより深く穴を掘って、そこで厳重に保管して少なくとも数万年間は人間社会から隔離する）に関わる研究をしていました。北海道最北エリアにある幌延町に地下坑道を掘って実験をする研究所があり、私はその周りで地形と地質の調査を行っていました。ただ私はそれ以前に高校で非常勤講師をしたり、中学校教員の試験を受けたりしていて、教育にも関心を持っていました。損得勘定なしに正しいことを臆面なく言える数少ない仕事だと思ったからです。それで地質学の研究をしつつ、若い人と一緒に切磋琢磨できる道として大学の教員となりました。

### Q 北沢先生はどんな研究をしているの？

地質学の中でも特に堆積学が専門です。例えば山が削られて土砂が生まれ、それが川を流れて海に堆積して地層になる、という現象について考えます。地層には昔の色々な情報が記録されています。研究は主にフィールドワークですが、私は堆積作用や地層を直接この目で見たいので、アクセス困難な山奥とか、深い海とか、自分が近づけないフィールドではあまり研究しません。また新しい地層の方が残された情報量が多く、見ていて楽しいです。学生時代からの研究テーマではベトナムのデルタや数十万年ほど前の地層（地質学的にはごく最近の時代です）を題材に、海面が100mほど上下変動する際に干潟やマングローブ林で環境がどう変わるかを考えています。今は学生の興味に応じて活断層や液状化の研究など一緒に行っており、何でも屋のようになっています。

### Q 地質学の研究は、社会でどのように役立てられる？

地質学は昔から地下資源の探査のために発展してきました。今も金属などの鉱物資源、石油などのエネルギー資源、水資源などの確保のために地下地質の理解は欠かせません。地下から何か取ってきて役立てるといことです。これとは逆に最近では、放射性廃棄物の地層処分のように、地下の空間を活かして何かを保管するという発想もあります。また地震・火山・土砂災害・洪水・津波などの自然災害も地下と地表で起こるので、地質現象の理解が防災・減災につながります。そして、何より人間や他の生物が暮らす根本的な基盤である地表と地下は、このブヨブヨの天体の中ではある程度は固い限られた生存環境としてよく理解すべきだし、人間が創ったのではない仕組みを理解することは楽しいことだと思っています。

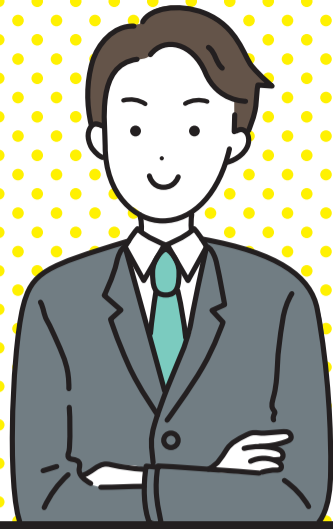
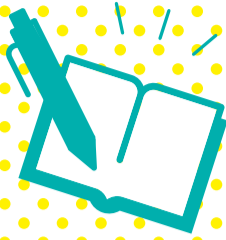


北沢 俊幸 准教授

所属：地球環境科学部  
環境システム学科

研究分野：堆積学、地質学、地形学

〔略歴〕信州大学大学院で地球環境システムについて研究し、博士号を取得。その後、日本原子力研究開発機構の研究員を経て本学の地球環境科学部の助教を勤める。国内外の様々な地質や地層を研究し、近年では地層の厚さを音の長さに変換し、堆積物の粒径を音の高さに変換して音楽を奏でる地層可聴化アプリ「Sedimentary Rock!」の開発などユニークな研究を行う。



## 時代はスポ根からデータサイエンスへ 統計や数値で視覚的に学ぶ近代スポーツ

ながた あきのり  
永田 聡典 先生

データサイエンス学部  
データサイエンス学科

### Q 永田先生はどんな研究をしているの？

スポーツパフォーマンスやチーム力を高めるための方法を研究し、スポーツ現場において実践しています。例えば、練習やトレーニングをしている際の身体機能を計測しながら、選手の課題を抽出し、効果的に選手のパフォーマンスを高めるための、データに基づくトレーニングプログラムの構築を目指しています。また実際の試合を分析し、技術を可視化することによって、技術の評価の方法や技術習得のためのコーチング方法も画策しています。加えてチーム力向上のために、一緒に働く人たちが目標を達成にむけて協力し、データに基づいて意思決定するまでのプロセスを活用したチームビルディングも実践しています。

### Q スポーツとデータサイエンスにはどんな関係があるの？

スポーツとデータサイエンスには、データを収集し、分析し、解釈し、そのデータに基づいた意思決定を行うことが共通点として挙げられます。例えば、選手のスピード、技術、身体機能などのパフォーマンスを評価することによって、怪我リスクを減らすことや、技術の向上が期待できます。また試合中のデータ解析によって戦略を立てることや、潜在的な選手の能力を予測することも施行されています。さらに、ファンの行動や好み、試合の感想などに関するデータを収集することにより、ファンのエンゲージメントを高めることにも役立つと考えられます。このように、現代スポーツにおける新しい価値を創造するためにデータサイエンスが活用されています。

### Q データサイエンスを学んだ人は、 社会でどのように活躍しているの？

データサイエンスを学んだ人は、スポーツ指導において選手の技術や、身体機能を可視化し、課題を抽出するスキルを活用し、選手を支えるコーチやアナリストとして活躍しています。また、スポーツ産業においては、スポーツ関連の企業や団体、公共機関などで活躍しています。その際にはマーケティングやプロモーションにおけるデータ分析のスキルが欠かせません。また、スポーツ関連のアプリやサービスを開発する企業においては、ユーザーの行動や好みなどのニーズ分析が重視されています。さらに、スポーツに関連する研究や開発においても、データサイエンスが活用されているため、研究・開発に携わる人材も活躍しています。



### 永田 聡典 講師

所属：データサイエンス学部  
データサイエンス学科  
研究分野：スポーツ科学

〔略歴〕 龍谷大学経営学部を卒業後、大阪体育大学大学院や九州大学大学院での研究を経て、本学の社会福祉学部講師に就任。その後、本学データサイエンス学部の講師としてトレーニング科学やスポーツパフォーマンスの分析などを教える。競技スポーツ現場でのアナリストやスポーツチームの監督として、データを活用してアスリートを支援する実践経験を持つ。

# 学部あれこれ

2023

立正大学各学部から届いたレポートです！

## 仏教学部

### 仏教学部における令和4年度の取り組みについて

今回は、2022年度における仏教学部の活動の中から3つの取り組みをピックアップして、ご紹介します。

まず6～7月にかけて、特色ある授業を厳選した上で外部講師を招き、本学部の授業を一般公開する「公開授業」を実施しました。2022年度は「宗史概論1」（米澤立晋講師）、「アジア美術史1」（ニム・ソティーヴン講師）、「芸術研究5」（高島一郎講師）の3科目で公開授業を行い、その様子を動画配信で一般公開しました。

また、日蓮聖人のご命日にあたる10月13日には

「未来へつなぐ法華経の世界」とのテーマのもと、「仏教文化公開講座」を開催しました。今回は3年ぶりの対面開催が叶い、本学部原慎定教授による法華経の意義と信仰に関する講演「日蓮聖人の法華経信仰—未来記の思想をめぐって—」と、大正大学伊久間洋光氏・鶴見大学宮崎展昌氏・本学部庄司史生准教授による法華経研究の最前線に関するパネルディスカッション「法華経研究の現在と未来」を行い、多くの方々が来場しました。そして公開講座の様子も後日動画配信し、その成果を広く社会に発信しました。

さらに本学部では、2022年度から学部開設科目中15科目をオンライン授業として開講し、遠隔地在住の方でも本学の科目等履修生制度を利用して

自宅等から本学部の授業を受講・単位修得できる体制を整えました。

2022年度もコロナ禍の一年となりましたが、これまでの日常を取り戻すべく、様々な工夫を凝らしながら、教育研究・社会貢献活動の一層の充実に向けた取り組みを進めています。



「仏教文化公開講座」パネルディスカッションの様子

## 文学部

### 文学部創設100周年を迎える 2024年に向けて —世界に挑む勇者たち

立正大学文学部は1924(大正13)年に創設されました。2024(令和6)年には創設から数えて100年目を迎えます。したがって、現在の9学部を擁する立正大学の中で最も古い歴史と豊かな伝統を誇るのが文学部です。第16代本学学長の石橋湛山が『立正大学文学部論叢』の創刊の辞(1953年)の中で「伝統をほこるわが文学部は、今後更に一層の光彩を加えることを疑わない」と大きな期待を寄せて以来、文学部は広く国内外の学術活動の進歩と発展に貢献してまいりました。

文学部創設100周年記念事業の実施目的は、学部の高度な専門知識や研究領域の特性を活かした良

質な教育の実践と新しい時代の学術研究を意欲的に促進させ、持続可能な開発目標を掲げるとともに未来社会の共創に向けて、明るい将来の展望への布石を打つことです。そしてこの記念すべき100周年の節目を契機として、本学の一層の持続的発展を図るために、異なる発想・知識を有する他学部との新たな協働体制を構築し、それを飛躍の推進力として創意に富んだ「立正力」というスローガンを掲げたい。本事業では、応募作品の中から選定されたオリジナルのロゴマークの制作、記念品グッズの製作、記念史等の編纂、特別記念講演会の開催、学生を交えた座談会の企画などを盛り込む予定です。

我々はこの周年記念事業を単なるセレモニーで終わらせることなく、既述の事象も絡めて文学部の輝かしい未来へ向けた記念碑的な力強い咆哮を

響かせる契機とすることが大切だと信じます。そして世界に挑む勇者として果たすべき役割と求められる期待を背負う高潔なる強い決意を持って、その遥か先にまで崇高な思いを馳せたい、わが文学部創設100周年記念事業企画委員会メンバー一同は等しくそう念じています。

文学部創設100周年記念事業企画委員会  
委員長 齊藤 昇



## 社会福祉学部

### 卒業生と地域の人々と共に歩む

開校150周年「社会福祉学部ウィーク」として取り組んだイベントを紹介します。

1. 「バラスポーツ体験」では、社会福祉学科卒業生で、東京2020パラリンピック車いすラグビーで銅メダルを獲得した日本代表の長谷川勇基氏が講演と車いすラグビーの体験で指導を行い、参加者の方たちに迫力満点の車いすラグビーの魅力を感じてもらうことができました。

2. 「地域とともにある大学」では、子育て支援センターイベント「ジャック・オ・ランタン」では、学生と地域の人々と共に、大きなカボチャをくり抜き、ランタンを制作・展示しました。また、立正幼稚園の年長児(2クラス)を大学に招き、図

画工作室で絵を描いてもらいました。その全員の絵をコラージュして、「150」の文字にデザインし、ステッカーを制作しました。幼稚園に持参すると、子どもたちは自分が描いたものが「150」の一部になり、大変喜んでいました。

次に、学科のトピックを紹介します。

社会福祉学科では、福祉などの分野において、現在他職種との連携の重要性が強調されています。本学科では社会福祉士の養成を行っていますが、他職種との連携に必要なコーディネート能力の育成を見据え、近隣の埼玉県立高等看護学院(看護師養成)と埼玉医療福祉専門学校(理学療法士養成)とのコラボレーション授業を行いました。今後、より発展させていく予定です。

子ども教育福祉学科では、リトミック1級指導

資格、11年連続合格率100%・全国1位を達成しました。受講している学生からは「自分の表現を楽しむことができるリトミックに出会え、嬉しく思いました。」との声がありました。2023年度も、12年連続合格率100%を目指して取り組んでいきます。



本紙3Pでも紹介されているステッカー



迫力のあるタックルを体験した後は、長谷川氏を囲んで記念撮影



中村 勝克 ゼミ  
(経営学部経営学科 教授)

# みんなのゼミ自慢

## 基礎から統計学を学ぶ中村勝克ゼミ ゼミ生と『中村さん』で積極的な学びの雰囲気作り



22年度最後のゼミにて、  
3年ゼミ生および数人の4年ゼミ生との記念写真

中村勝克ゼミは統計学を一から学ぶことが出来るゼミです。統計学と聞くと「堅苦しそうで難しそう」と感じ、敬遠しがちになるかと思いますが、実際にはテレビ番組の視聴率やテストの偏差値など、多くの身近な場面で活用されています。中村ゼミでは、そのような統計学を基礎の基礎から学び、アンケートなどのデータを分析、発表するところまで行います。

2年次ゼミでは教科書やMicrosoft Excelを活用し、統計学の導入としてまずカイ2乗検定やt検定などを0から学びます。その上で、年末に開催されるゼミ大会に向け、グループに分かれ準備をし、研究発表に挑みます。3年次ゼミではさらに主成分分析や因子分析などを学び、それらを用いたグループワークを中心に活動します。また、3年生になると、ゼミ大会のほかにも、オープンゼミなどのイベントを主体的に運営します。

中村ゼミでは、教授である中村勝克先生の「学生と対等でありたい」という思いから教授のことを「中村さん」と呼ぶ独自の方針があります。そのため学生と教授との距離感が近くなり、

変に緊張感を持つことなく比較的明るい雰囲気でのゼミ活動を行うことが出来ます。また、統計学を学ぶときや、Microsoft Teamsを用いた「オンライン授業」の際はとても静かですが、グループワークになると意見が飛び交い、とても賑やかになります。このようなメリハリのある部分も中村ゼミの良い点です。

昨年と一昨年は新型コロナウイルス流行のためゼミ懇親会などのイベントは行うことが出来ず、我々ゼミ生はもちろん中村さんも残念がっていましたが、その分、2年生と3年生の交流の機会や、授業内でのちょっとしたレクリエーションなど、中村さんが様々な工夫を凝らしてゼミ活動を盛り上げて下さいました。

中村さんが学生との壁をなくそうと努めてくださったことで、私も含めたゼミ生たちは、気負い過ぎずにゼミ活動を行うことが出来ました。統計学という学問を楽しく基礎から学ぶことが出来る中村ゼミは、私にとって自慢のゼミです。

記事: 齋藤 航輝  
(経営学部経営学科新4年)

## 立正大学での4年間で糧に 北の大地へ!

法学部法学科卒(取材当時4年)  
常葉大学附属菊川高等学校出身  
奈良間 大己さん

# 輝く人

キラリ モラリスト × エキスパート

本学硬式野球部で主将を務める奈良間さん。昨年10月20日に行われたプロ野球ドラフト会議にて、北海道日本ハムファイターズより5位指名を受け、プロ野球選手になる夢を叶えました。ドラフト当日は「名前が呼ばれるまで緊張していたのですが、仲間が一斉に飛び上がる姿を見て、自分が指名されたことに気づきました」と、振り返ります。

高校時代、甲子園出場やU-18日本代表選出などの輝かしい経歴を持つ奈良間さん。しかし、共に日本代表として戦った同級生との実力差を痛感し、高校卒業の際はプロへの志望届を提出しませんでした。「プロで通用する力をつける期間」として、“自分で考える野球ができる”この立正大学に進学を決めました。

大学1年時からレギュラーとして試合に出場しましたが、3年春に東都大学リーグ2部降格という悔しい経験もしました。「降格が決まった試合は今でも忘れません。主力として出場しながらの降格。みんなに申し訳なかったです。その年のオフは、1人合宿場に就いて練習をしました」と、当時を語ります。

大学での4年間について、「常に野球のことを考え、過ごしてきました。嬉しい試合も悔しい試合も、数えきれないほど沢山あります。試合で打てない日は、なぜ打てなかったのか何が足りないのかを考え、1人残って練習をしたり遅くまで仲間につき合ってもらうこともありました。また、寮で一緒に生活をしているので、部員みんなでお湯につかりながらたわいもない話をしたり、野球の悩みを打ち明けあうこともありました。苦しい時期もありましたが、かけがえのない4年間。監督やコーチ、仲間にも恵まれ、立正大学へ進学して本当に良かったです」と、周りへの感謝と共に、笑顔で話してくれました。

### 1年目から勝負の年に 一軍定着へ

最後に今後の目標を伺うと、「ポジション問わず、とにかく試合に出ることです。プロ野球選手になってからが本当のスタートで、試合に出ないと何も始まらない。立正大学で培った自分で考える力を生かして1年目から試合に出られるよう頑張ります」と声を弾ませ、答えてくれました。奈良間選手のプロ野球人生がスタートします。



ドラフト当日の名前を呼ばれた瞬間の奈良間さん

## REPORT

# [品川キャンパス] 立正子ども向け講座 ～FOR THE KIDS～

2022年11月5日に品川キャンパスにて品川区の後援を受け「子ども向け講座 FOR THE KIDS」を開催。

品川キャンパスでの小学生を対象とした講座の開講は今回が初めてとなり、橘花祭(学園祭)と同日開催とすることで、参加者だけでなく、保護者の方にも大学の雰囲気を知ってもらう機会となりました。当日は品川区内小学校に通う4～6年生11名が参加し、「新しいことを知れて楽しかった」など好評でした。

<当日の講座内容>

### 1限. 選挙ってなんだろう!?模擬選挙を体験しよう (法学部・西谷尚徳准教授)

投票所で使われる用紙や投票箱を使い、参加者の中から立候補者を募り演説を行う模擬選挙が行われました。最初に政治や選挙とはどんなことなのか、日本や外国の国政選挙の投票率についてレクチャーを受けた後、実際の投票体験を行いました。演説から投票までの一連の流れを知ること、子どもたちは選挙の大切さを感じ取っていました。

### 2限. 方言を聞きくらべて考えよう (文学部・白岩広行准教授)

日本昔話「ももたろう」を各地の方言(福島、京都、鹿児島、沖縄)で聞き比べ、方言の特徴などを学びました。中には「方言」というものがあることを初めて知った参加者もいて、今回の講座が方言に触れるきっかけ作りの役割を担うことが出来たのではないかと思います。福島出身の白岩先生がその場で方言を話す場面もあり、標準語とは全く異なる言語に参加者たちは驚いていました。

### 3限. 仏像の秘密教えます (仏教学部・秋田貴廣教授)

日常生活では、あまり触れることのない仏像。そもそも仏像とは何か、仏像にはどのような意味が込められているのかなどを学びました。また、レプリカを用いての説明もあり、仏像の仕組みを学びながら手に取って形を確かめるなど貴重な体験となりました。



秋田先生による授業の様子

今後も地域に根差した大学として、学外の方が興味関心を持てるような講座の開講など、地域連携活動を行います。

## REPORT

# [品川キャンパス] 立正大学ビジネスセミナー2022 ～FOR THE BIZ～

2022年11月24日から12月22日にかけて、毎週木曜日にビジネスパーソンを対象としたビジネスセミナーを開講しました(全5回)。

参加者はOBの方や企業・病院に勤める方、弁護士など、最終的には30名以上の様々な職種の方々が集まりました。

開講にあたり品川区、城南信用金庫から後援を受け、RISSHO VISION 150で掲げていたアクションプラン「S06 エクステンション講座の実施」を実現することができました。地域のニーズと本学の資源を掛け合わせた講座は右記の通りです。

第1回 「AIと心理学を知れば、文系AI人材でいいことが分かる講座-数式無しのAI超入門-」  
櫻井 広幸 (心理学部 准教授)

第2回 「今日から始める中小企業DXの進め方」  
山下 聖 (ソシオネット株式会社 代表取締役)

第3回 「日本企業のアジア進出とイノベーション」  
伊藤 善夫 (データサイエンス学部 教授)

第4回 「消費者行動の心理学」  
八木 善彦 (心理学部 教授)

第5回 『「戸越銀座商店街物語」～地域をつなぐ商店街～』  
亀井 哲郎 (戸越銀座商店街連合会 専務理事)



亀井氏によるセミナーの様子

「大変勉強になった」「興味深い話を伺えた」というお声を頂いた一方、初の試みであったがゆえ幅広いテーマ設定となり対象を絞り切れていない印象も残りました。

今後は、対象とする業種や職種、職位層などを明確にし、より専門性の高い講座を提供できるよう工夫をしていきます。

## REPORT

# [熊谷キャンパス] 立正オープンカレッジ

熊谷キャンパスでは、地域貢献・生涯学習支援を目的に、「立正オープンカレッジ」を開催。品川キャンパスを含めた全9学部の講師陣によって各学部1講義、計9講義を前期(6月中旬から7月下旬)と後期(9月下旬～10月下旬)に分けて、土曜日に実施しています。

2020年度からの2年間は、新型コロナウイルスの影響により開催中止やオンデマンドでの開催を余儀なくされましたが、2022年度は感染対策を行いながら3年ぶりに対面にて開催し、全9回に渡り多種多様な講義を展開して、受講生の方から好評を得ました。

～2022年度 講演テーマ～

第1回 『アメリカ文学って何?』

第2回 『中学・高校生からわかる地理学』

第3回 『ウクライナ紛争と国際法』

第4回 『「まちづくり論」からみる地域共創力の可能性』

第5回 『非常時を想像して日常を創造しよう  
:ツールとしての誰ひとり取り残さない災害対策』

第6回 『ストレスやトラウマの心理学』

第7回 『資本主義の未来と自由の構想』

第8回 『地理空間データを活用した身近な地域の安全点検』

第9回 『「今」からはじめる仏教史』



### 2023年度オープンカレッジについて

開催時期・講演テーマなどの詳細は、研究推進・地域連携センターホームページでお知らせします。受講希望者は、5月下旬頃、当センターのウェブサイトの「お知らせ」を確認、または下記お問い合わせ先までご連絡ください。

豊かな自然に囲まれたスケールの大きな熊谷キャンパスで、一緒に学んでみませんか。

#### 【お問い合わせ先】

立正大学研究推進・地域連携課(熊谷)

立正オープンカレッジ係電話:048-536-6019



# 教職教育 センター

## ホームカミングデー 教職企画紹介

「ホームカミングデー」とは、立正大学卒業生に母校にお越しいただき、往時を懐かしみ、現在の学生とも懇談してもらう校友会主催のイベントです。

2022年11月5日に品川キャンパスで開催された「ホームカミングデー」では教職関係者の部屋を設け、新たなプログラムを設けました。教職に就かれている皆様、すでに教職を退かれた皆様にお集まりいただき、旧交を温めていただくとともに、現在教職を目指して学業に励んでいる現役の学生との交流の機会となりました。

本学は戦前から、多くの学校の先生を世に送り出しており、教育界における本学出身者の地歩は大変大きなものがあります。教育現場で活躍されてきた先輩の皆様方の経験を、若手の現場教員、そして本学で教職課程を履修している学生に共有できる素晴らしい機会を持つことが出来ました。

## ホームカミングデー 教職の集い 2022

卒業生の方をお招きし、講演や懇談会が行われました！

### 第1部

#### 記念講演・講演会

10:00 ~ 12:00 942教室

#### ◆記念講演会

演題：いまの教育現場の現状と教職大学院で学ぶことについて

講師：山岸 皇さん(2019年文学部史学科卒業)現在、釧路東高等学校教諭

#### ◆講演会

〔新規採用教員の方からメッセージ〕

◇吉野 颯太さん(2022年文学部史学科卒業)

現在、品川区内小学校で社会科を担当。

教員採用試験に関する話や実際に自身が教職に就いての現場での仕事内容や感じていることなどを紹介。

〔ベテラン教員の方からのメッセージ〕

◇長谷川 正彦さん(1977年文学部地理学科卒業)

現在、熊谷キャンパスにて教職アドバイザーを担当。

◇北村 陽さん(1993年文学部哲学科卒業)

高崎健康福祉大学、本学非常勤教員。

◇杉中 宏さん(1974年文学部社会学科卒業)

新潟市立浜浦小学校長、新潟市小学校教育研究協議会会長を歴任、現在は新潟県小中学校退職校長会新潟支部副支部長。

長く教職の現場で活躍した経験についての話や在学生に向けてアドバイス。

#### student report /

第1部では現職教員の卒業生の方が特別講演を行いました。講師の方々をはじめ、会場にいらした卒業生、鹿嶋先生と所澤先生の語る「現場の声」は教職志望として大変参考になりました。佐伯 夢実(文学部史学科新2年)



### 教職教育センターの取組み紹介

現在、教職教育センターは、教員採用試験対策の大規模な改革を進めています。

まず、教職キャリア支援のために、品川キャンパスと熊谷キャンパスに非常勤指導員を配置しました。学生からの相談に無料に対応しています。また、無料の特設集中講座も系統的、組織的に行い始めました。2年次生向けには、年度末の3月に論文対策集中講座を実施します。3年次生向けには、前期に、校長経験者による講話「教職への心構え」を実施、12月に半日2コマの教員採用試験の教職教養過去問対策集中講座を実施します。さらに3月には論文対策、指導案作成、板書計画等の集中講座を行って4年次につなげます。そして4~6月に3月の講習の補充指導を行うほか、7月から8月にかけての数日間、教員採用二次試験対策直前集中講座を学内と学校現場で実施します。いくつかは卒業生にも開放しています。

### 第2部

#### 実際の教育現場から

13:30 ~ 15:00 942教室

◆現在の教員採用試験対策の紹介

◆卒業生の授業実践の様子

授業の様子を取材したものをビデオで紹介しました。

◆教職履修者より

◆教職履修学生相談

#### student report /

第2部では卒業生による授業の様子を動画で視聴しました。また、教職履修者の在校生と卒業生による学生相談会を開き、履修に関する悩みや様々な自治体の授業実践について聞きました。

有馬 蘭(文学部文学科新2年)



### 第3部

#### 交歓会

15:20 ~ 17:00 942教室・943教室

◆データサイエンス学部紹介：スライドを使用し、データサイエンス学部の紹介と、情報教育に関する情報交換を卒業生・在学生と行いました。

◆交歓会では、ざっくばらんに、卒業生、在学生が交流し、教育現場の状況や採用試験対策など現在が卒業生に聞く場となりました。なかなか交流を持つ機会のない卒業生同士も交流を行える場となりました。

#### student report /

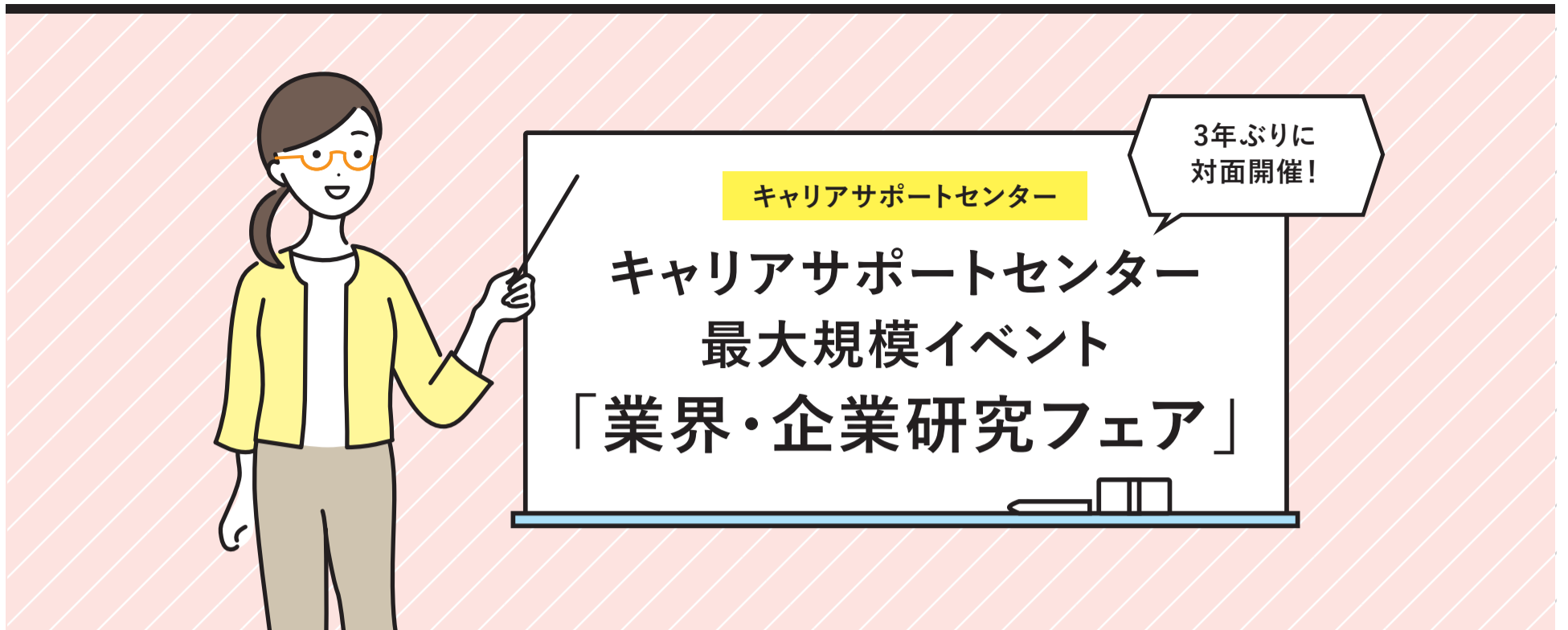
第3部では学生スタッフが中心となり、構成的グループエンカウンターをベースにした「ペーパータワー」という活動を行いました。活動後には学生からの質問や卒業生の方の経験談を聞くことのできる時間を設けました。卒業生の方から貴重なお話を聞く機会となりました。

松下 萌香(経済学部経済学科新2年)



#### スタッフ コメント

3年生である現在、模擬授業や試験勉強を行っている身ではありますが、スタッフや司会として準備に携わり、前に出ることで原点を見直し意識を改めるきっかけとなりました。笠井 れな(文学部史学科新4年生)



## オンラインが定着するも最後は対面が求められる就職活動

就職活動においては、2019年度末からのコロナ禍により、説明会、セミナー、面接など従来対面で行うのが当たり前であった多くの場面で感染予防の観点からオンラインツールが導入されるようになり、学生にとって交通費が掛からず参加しやすい、対面に比べてリラックスしやすいといったメリットもあり、急速に普及しました。3年目を迎えた令和4年度においても、割合としては減少しているものの説明会や一次選考など、選考初期の段階ではオンライン中心の傾向が続いています。

このようにコロナ禍で定着したオンラインによる就職活動ですが、採用する側の人事担当者に伺うと「対面形式と比べて画面以外の所作や細かい雰囲気分かりづらい」、「出来れば対面形式により学生の反応を直に感じたい」といった声をお聞きすることがあります。最終面接については75%が対面のみで行う、という調査データもありますので、コロナ禍においても対面による選考のニーズは高いものと思われます。(※1)



受付の様子

## 業界・企業研究フェアを対面形式で開催

私たちキャリアサポートセンターでは、授業のオンライン化と共に2020年度および2021年度はガイダンス、セミナー、面接対策など、各種の就職活動支援イベントをオンライン形式としてきましたが、2022年度は対面授業再開に伴い学内での対面形式を主として、オンライン配信も行うハイブリッド形式を取り入れながら実施してきました。

その中で毎年2月には、3年生が3月1日の就活解禁を迎えるにあたり、多くの業界や企業・団体の人事担当者の方から立正生向けに自社の業界を中心に説明をして頂く「業界・企業研究フェア」を開催しています。過去2年間はオンラインで実施しましたが、令和4年度（2024年卒生対象）は

3年ぶりに対面形式で、約240社を招いて開催致しました。この「業界・企業研究フェア」は、学生にとっては志望する業界・企業から直接話を聞くことができる貴重な機会であり、これを機にエントリーし、内定に繋がることも多くあります。実際に過去のこのイベントで現在の会社と出会って入社に至り、今日のセミナーで多くの後輩に話を聞いてほしいという熱い想いで来校されたOB・OGの方もいました。

## 対面開催を生かそうという活気あふれるイベントに

過去のオンライン開催の際は、学生は事前に決めた企業ブースのみに参加し、終了後は退室するというケースが多いため、会の途中で私たちスタッフが話を聞ける機会は少なく、学生の動向が見えづらいついていました。しかし今回は、事前には決めてはいたものの解禁が近いのでひとまず参加しましたという学生も多く、スタッフが声をかけてその場で志望業種や職種を聞きながら該当するブースを案内したり、まだ業種や職種が漠然としている場合は今まで意識していなかったブースを提案するなど、対面開催を活かし、なるべく多くの業界や企業との接点を持ってもらう様心掛けました。他にも友人と偶然会場で出会い話しながら次のブースを決めたり、スタッフに急遽メイクの相談をする学生など、対面の場を活かそうという活気を感じました。また参加企業からも、オンラインでの説明会が続く中、対面により学生が熱心に傾聴してくれる姿を直接見ることができて大変良かったという感想があり、久しぶりの対面開催は盛況のうちに終わることができました。

また今回は併せて、キャリアサポートセンターと企業・

団体による「採用担当者交流会」を開催し、エントリーシートの評価点や印象度アップのポイントなど実践的なアドバイスだけでなく、エントリーした学生にはなるべく選考を通過してほしいという想いなど、企業内で一番多く学生と接している採用担当の方からの貴重なお話を聞くことができました。



採用担当者交流会

## 情報収集の場として学内イベントを活用を

最近では就活に関する情報の入手は「就職情報サイト」から、というのが最も多いと言われますが、今回のようにネットでは知ることが難しい企業の生の声を聞くことができたり、事前に決めずともその場で相談しながらトライできるのも学内イベントならではの大きなメリットですので、今後も学生の皆さんには自身の進路を考えていくにあたりキャリアサポートセンターを大いに活用して頂きたいと思えます。



両キャンパスの会場の様子

※1 東京商工会議所『2023年新卒者の採用・インターンシップに関する調査』より

## アフターコロナに向け留学再開!

国際交流センター  
デンドウ・ゲリーセンター長  
からのメッセージ



### Begin Your Journey

What image comes to mind when you hear the word “journey”? If you’re like most people, you think about going to a new, faraway place. However, here, I want you to think of “journey” and “studying abroad” in a completely different way. Most people think that studying abroad is about studying language, learning about different cultures and meeting new people. That is all true... However, one of the most important things that one can gain from studying abroad is learning about yourself. You will discover things about yourself that you might have never thought of before. What is interesting is, the more you learn about yourself, the more you will want to learn about the world around you. This leads to a wonderful cycle of self-discovery and acquiring new knowledge and skills. Studying abroad is not just about language. Let the Center for International Exchange help you begin your “journey” today.

### 留学の再開に寄せて

コロナ禍により海外派遣がままならない長くもどかしい時間を経て、2022年夏期より、現地派遣が再開されました。国際交流センターでは、2022年8月にイギリスのCCCU（カンタベリークライストチャーチ大学）で行われた3週間の語学研修に、10名の学生を派遣。同じく8月以降、交換留学・語学留学といった中長期留学の派遣も再開しました。

再開にあたり、新型コロナウイルス感染症に関する危機管理体制を整えましたが、コロナ禍での留学は不安なことも多かったと思います。しかし参加した学生の感想を読むと、留学が学生にとって、この上ない経験になっていることを再認識します。

今年度も国際交流センターでは、現地派遣型プログラムを実施する予定です。ひとりでも多くの学生に参加してもらいたいと思います。

### CCCU 語学研修参加

曾我部 莉子さん（法学部 1年次参加）

今回の語学研修に参加してみて、本当に有意義な経験ができたと感じます。英語力の向上はもちろん、現地に実際に行ってみることで感じられる日本との価値観、考え方の違い、生活様式など普段の生活では体験することのできないことが現地派遣の研修で可能になりました。また私が研修に参加して一番良かったと感じることは、かけがえのない仲間ができたことです。CCCUの語学研修に参加した仲間は学年も違えば学部も違い、境遇は異なるものの、英語力の向上を目指す同じ志を持つもの同士、お互いに高めあうことができました。研修を通してでしか出会うはずのなかった仲間ができたことは、私にとって大きな財産であり宝物です。こんな経験も語学研修に参加していなかったらできなかったことです。そのため留学に少しでも興味があったら、自分の殻を破ってぜひチャレンジしてみてくださいと思います。



RISSHO BITO

# 立正人

【活躍する校友】

## 大手文具メーカーの代表取締役社長に就任の立正人 アイデア文具やキャラクター商品で市場拡大

サンスター文具株式会社  
代表取締役社長

よしまつ ゆきよし  
吉松 幸芳さん  
1990年 法学部法学科卒業

みなさんは、サンスター文具の商品を使ったことがありますか？サンスター文具株式会社は、およそ70年の歴史を誇り、これまで様々なアイデア文具を発売してきました。今回の立正人は、そんなサンスター文具株式会社の代表取締役社長を務める吉松幸芳さんです。吉松さんは卒業後、キャラクター商品で有名な株式会社バンダイに入社。その後、複数の事業部でゼネラルマネージャーを務め、2019年に子会社であるサンスター文具株式会社の取締役就任。2022年4月から同社の代表取締役社長となりました。



入社時の吉松さん(写真左)

### — 現在の会社で力を入れている点について

吉松さん：他の文具メーカーと同じことをしても仕方がないので、市場の隙間を狙ったり、目線を変えてみたり、いわゆるアイデア文具に力を入れています。アイデア文具と言えばサンスター文具といった代名詞で勝負したいと思っています。また、主力のキャラクター文具についても、商品にコレクションアイテムとしての付加価値もつけることで、子どもだけではなく大人もターゲットにしてマーケットを拡大したいと思っています。

### — バブル景気で人気だった金融業界への就職は考えていたのか

吉松さん：大学3年になってから就職について考えるよう

になりましたが、金融業界は会社でどのように利益を出していくのか、イメージが湧きませんでした。それに、仕事は楽しい事でないと思わなかったため、その時点でメーカーは良い商品を買って、それをお客さんが良いと思ってくれれば会社の利益になるという、非常に分かりやすい仕組みだと思いました。

### — 様々な事業部を経験後、子会社の取締役に就任して得たもの

吉松さん：全く異なる2つの業界でしたが、知らない事を知れる事は楽しかったし、様々なチャレンジもできました。そこで分かったことは、『どのような環境でも、一緒に働く人に対する敬意を忘れてはいけない』ということです。社

会人になると自分の価値が上がらないと立場も上がりませんし、それは周囲の人が評価するものなので、逆に『自分が周囲の人の価値を上げていきたい』と思うようになりました。

### — これからの社会を担う若い世代の読者へ向けて

吉松さん：若いころは物事の方向を決めつけがちで、それが実現できず落胆することもあると思いますが、1つ1つの結果に対して、腐らずに目の前のことを一生懸命頑張る事が大切です。先を見すぎると、やるべきことが分からなくなってしまいますので若い人たちにもぜひ意識してもらいたいです。

※この記事のフルバージョンは学園新聞web版に掲載しています。  
(表紙のQRコード参照)

## 容月和上印譜 1冊／林古溪 昭和16年(1941)自筆 N99/Y 73

本書は新居日薩の印譜に、「老師遺印記」を付した林古溪の自筆本です。書名にある「容月」は日薩が用いていた号の一つに当たります。

新居日薩(1830～1888)は、大車院日軌に就いて得度し、身延山久遠寺73世や池上本門寺65世などを歴任した人物です。明治5年(1872)には、立正大学の起点となった芝二本榎承教寺に開講した小教院(後の宗教院)で中等科助教を務め、以降も子弟教育や日蓮宗門の改革に尽力しました。そのため、立正大学の学祖に位置づけられています。

「老師遺印記」は、本学の教員であり、国文・漢文学者として知られた林古溪(1875～1947)が記した文章です。そこには、本書を作成した経緯が述べられています。その内容をまとめると以下ようになります。

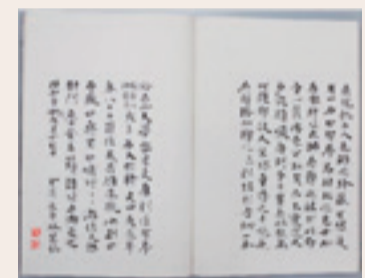
昭和16年(1941)の8月、池上本門寺の塔頭の一つである中道院の蔵から、箱に入った日薩の印章が見つかりました。発見者は石川存静です。印章は、日薩のものが三十余と、日薩の師であった日軌のもの2石などで、紙片に、37の内四つが無くなった旨が記されていました。古溪は、昭和12年(1937)に刊行された書籍『新居日薩』の編纂委員の一人でしたが、その際、日薩の印章の行方は分からず、日蓮宗大学や池上本門寺の火災によって失われたと考えられていました。『新居日薩』にも日薩の印譜が掲載されていますが、それは画家であった野口駿尾が模写したものだといえます。本書は、発見された印を存静が紙に押し、印記の脇に古溪が篆刻者などを注記して「立正大学容月文庫」に贈ったものです。

当館にある新居日薩ゆかりの資料としては、日薩の功績を記念して明治26(1893)年ごろに集められた新居文庫が

ありますが、「容月文庫」の名称は現在使われていません。経緯は不明ですが、本学に古書資料館が開館した平成26年(2014)の時点で、本書は通常の洋装本と同じように扱われていたようです。昭和になってからの写本ではありますが、本書は本学にとって貴重な資料といえるでしょう。現在は、古書資料館の書庫に収蔵されています。



▲ 新居日薩の印譜



▲ 「老師遺印記」の末尾  
林古溪の署名と印記がある。

貴重資料紹介

第28回



製作中の模型



模型が設置されているロータスギャラリーB

## 大崎校舎本館再現模型の設置

2月中旬、立正大学学園開校150周年記念事業の一環として、ロータスギャラリーB(品川キャンパス13号館B1階)に新たな模型が設置されました。日蓮宗大学講堂再現模型、石橋湛山学長室再現模型に続く3つ目の「大崎校舎本館再現模型」です。この本館は、120周年記念事業による現在の1・2・3号館建設前の旧1号館にあたります。

『月刊宗報』(第78号、第86号、第87号)によると、この大崎校舎本館は、1923(大正12)年3月に開かれた第16回日蓮宗宗会議事概要で「総工費貳拾萬圓の豫算を以て目下僊石技師の事務所にて設計中なるが四月末までには完了の見込みなり」と記されています。建設中の9月1日には関東大震災が発生しましたが、幸運なことに大きな被害は受けませんでした。翌1924(大正13)年1月21日に上棟式が行われ、4月1日に完成。5月17日には大学令による立正大学(旧制)が設立認可されることとなります。

ここで「僊石技師」とは、せんごくまきたろう 僊石政太郎(1879～1945年)のことで、帝大出身の建築家が主流であった時代に、大工の棟梁である河井栄八(陶芸家である河井寛次郎の父)に師事し、その後、工手学校(現・工学院大学)などの学校で苦学を重ねながら自身の建築事務所を設立した建築士です。警視庁に勤務するという経歴があり、そのときに劇場の建築や設備関係の監督を担当したことが、のちに劇場や映画館の設計に携わることになったと言われていています。ほかには、立正大学図書館(1926年)、富士館(1927年)、明治座(1928年)、帝都座(1931年)などを担当しました。

今回設置された再現模型は、重厚感のある当時の鉄筋コンクリートの校舎を再現しております。ぜひとも隣に設置してある木造の日蓮宗大学講堂と比較しながらご覧いただければと思います。

# RISSHO JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL

## 立正大学付属立正中学校・高等学校

### 第75回 東京都中学校野球秋季大会で初優勝を果たす

2022年11月に開催された東京都中学校野球秋季大会において、出場校数約500チーム（11ブロック）の中を勝ち抜いた46チームによる本戦が行われ、本校野球部が東京都中学校秋季野球大会で見事に優勝を果たしました。

決勝戦は初回から本校が2アウト満塁のチャンスを作ると、デッドボールやヒットなどで5点を先制し、守備でも相手打線に得点を許さない盤石の試合運びを見せました。その後、5回にダメ押しとなる2点を追加して、最終的には7対0の参考記録ながらノーヒットノーランの5回コールド勝ちをおさめました。

これは東京都中学校野球の頂点に立つという栄誉なことで、高校野球に例えると東京都代表で甲子園出場に値するくらいの輝かしい成果です。今後の活躍にも期待がかかります。



【選手名:守備:学年】

1. 中道 清貴(投2)
2. 横川 幸多(捕2)
3. 稲葉 大地(内2)
4. 遠藤 涼央(外2)
5. 角田 陸斗(外2)
6. 有我 碧(外2)
7. 上野 僚太(内1)
8. 原田 賢芯(内1)
9. 西仲 瑛彦(内1)
10. 平林 大和(捕1)
11. 光安 優清(投1)
12. 治田 大嘉(外1)
13. 田代 祐大(外1)

### 職業講話開催される

1月24日、中学1年生対象に本校卒業生が語る『職業講話』が開催されました。中学1年生にとって社会人はまだまだ先のことでありますが、この職業講話では、自らの進路を考えるきっかけとして「社会で生きること」「働くこと」について卒業生から話を聞き、理解を深めます。今回は、社会で活躍している7人の卒業生が、自分たちの中学生や高校生時代の話、現在の仕事に就くまでの動機や、仕事の内容、苦労話などを分かりやすく話しました。



職業講話の様子



前列左から、藤井道人さん(映画監督)、平井見奈さん(キャビンアテンダント)、丸山久美さん(環境省希少種等保護増殖専門員)  
後列左から、田中優斗さん(銀行員)、安井浩和さん(こだわりスーパー経営)、菊地武さん(臨床工学技士)、手塚賢二さん(スポーツトレーナー)

# RISSHO UNIVERSITY SHONAN HIGH SCHOOL

## 立正大学 淞南高等学校

### サッカー部が県大会で優勝

### 島根県代表として3年ぶりに全国の舞台へ

2022年12月に第101回全国高校サッカー選手権大会が開催され、本校は島根県代表として3年ぶりに出場しました。1回戦の相手は新潟県代表の日本文理高校。3年ぶりに声を出しての応援が許可されたこともあり、試合開始から両校の大声援が鳴り響く中でのキックオフでした。

試合開始15秒でゴールネットを揺らされる波乱の展開となりましたが、その後は選手全員で前半を耐え、後半開始直後にU-17日本高校選抜にも選ばれたエースのFW 香西銀次郎(3年)とMF 進海翔(3年)をピッチに送り込んで怒涛の攻撃。後半17分に、中央からダ・シルバ・イゴール・ヤン(3年)がドリブルで持ち上がると、相手を引きつけスルーパスが通り、ペナルティエリア内右に抜け出した香西が右足でニアサイドに蹴り込んだボールがネットを揺らし、会場中が「黄色」の歓喜に沸きました。逆転ゴールを目指しましたが、同25分にカウンターから一瞬の隙を突かれ、失点を許してしまいました。その後もチャンスを作りましたが、無情にも試合終了のホイッスルは鳴り響き、19回目の冬の挑戦は1回戦で幕を閉じました。



最後まで黄色の戦士たちの心が屈することはない、ピッチに立つ者、ベンチの者、大声援を送り続ける応援の者、部員全員が最後の最後までゴールを目指し戦いました。

【第101回全国高校サッカー選手権大会 結果】

1回戦 日本文理高校1-2●

### 第5回全国高校eスポーツ選手権大会

### ロケットリーグ部門に出場

### 2年連続ベスト16

2022年12月18日、eスポーツの甲子園とされる第5回全国高校eスポーツ選手権大会がオンラインで開催されました。昨年は創部初年度でベスト16という快挙を成し遂げたこともあり、昨年を超えるべくベスト8を目指し臨んでいました。

メンバーが総入れ替えということもありなかなかまとまらない状況で苦しい状況でしたが、前日までオンラインで練習試合をすることにより当日の朝の練習でチームとしての戦い方が出来上がりました。初戦は緊張し、1セットを両チームが取る展開で、負ければ終わりという状況でしたが、チームワークを発揮し、初戦を突破することが出来ました。するとそのまま勢いに乗り



準決勝まで進むことが出来ました。Cブロック準決勝では力の差を見せつけられ敗戦。昨年同様にベスト16(Cブロックベスト4)という結果となりましたが、やってきたことを存分に発揮し、次に繋がる試合となりました。

【第5回全国高校eスポーツ選手権大会  
ロケットリーグ部門 Cブロック結果】

1回戦 関西学院高等部2-1○

2回戦 東京成徳大中学校(中高一貫部)2-0○

3回戦 日本航空高等学校北海道キャンパス2-0○

準決勝 N高等学校0-2●

※ 学年は2022年度時点の学年

# 立正大学 強化クラブ情報

## サッカー部

### プロ6人輩出も2部リーグ5位で終える 1部復帰に向け新体制が始動



2023シーズンで主将を務める杉本光希(地球環境科学部新4年)

昨シーズンは混戦の末に最後まで関東大学リーグ戦1部復帰の可能性を残しながら戦いましたが、力及ばず5位で終え、1部リーグ復帰とはなりませんでしたが、しかしながら、創部初の東京都サッカートーナメント優勝、天皇杯出場や6名のプロサッカー選手を輩出するなど、実り多きシーズンでもありました。これも学生たちが切磋琢磨し、強度の高い厳しい練習を積んで来た賜物です。

2023シーズンは至上命題『1部復帰』を達成すべく、主将には杉本光希(地球環境科学部新4年・GK)が任命されました。

杉本「2023シーズンの目標としては、昨年に引き続き『2部リーグ優勝』、『1部リーグ復帰』を掲げ、邁進してい

きたいと考えております。昨年目標を達成できなかった中で、チームの課題としては明確になっており、その点において、どのように取り組んでいくかが重要になります。これまでの部の伝統を継承することは勿論、より強く、より愛され、より応援されるようなチームになる為に、伝統を磨き上げていきたいと考えております。また、クラブ理念である『社会で活躍できる人材の育成・輩出』のもと、サッカーを通じて人間性の向上にも力を入れていきます。最後になりますが、立正大学体育会サッカー部の応援をよろしくお願いたします。支えてくれる方々への感謝の気持ちを忘れず、チーム一丸となって全力で戦います。熱いご声援よろしくお願いたします。」

### 過去最多! 2022年度で最多6名のJリーガー誕生

2022年12月12日、品川キャンパスでサッカー部の報告会が行われました。

リーグ戦の結果や、チームとして初出場となった天皇杯、史上最多となる1シーズン6名のJリーガー輩出などが報告され、2023年シーズンもサッカー部の躍進に期待がかかります。

また、2022年12月18日にはJリーグと契約した6人の合同記者会見も実施されました。



報告会の様子



※名古屋グランパスに内定している榎原杏太(地球環境科学部新4年)は在学中のため、会見には出席していません。

Jリーグ内定者合同会見で記念撮影

- 吉田新(地球環境科学部卒)
- 湘南ベルマーレ(J1)右から3番目
- 平松航(地球環境科学部卒)
- 栃木SC(J2)右端
- 深港壮一郎(地球環境科学部卒)
- 町田ゼルビア(J2)右から2番目
- 井上竜太(地球環境科学部卒)
- ツエーゲン金沢(J2)左から3番目
- 竹村俊二(地球環境科学部卒)
- カマタマーレ讃岐(J3)左から2番目
- 鳥飼諒平(地球環境科学部卒)
- カマタマーレ讃岐(J3)左端

## 硬式野球部

### 新体制でキャンプ実施 課題の打撃を強化し、1部昇格を目指す



昨年、三塁手ベストナインを獲得した新主将の三井佑真(法学部新4年)

春季リーグ戦において「1部昇格」を目指し、新チーム結成から主将の三井を中心として目標達成のために日々しのぎを削っています。

2月中旬から3月上旬にかけて宮古島と熊谷の二か所に分かれ、キャンプを行いました。宮古島では暖かい環境で練習を行うことによって体をしっかりと動かし、身体の調子上げていくことができました。熊谷では選手一人ひとりに時間の使い方を考えさせ、個々の足りない部分を重点的に強化しました。また、

チーム全体として技術面はもちろんのこと、体力的な面でも強化を行うことができました。

キャンプ後からは企業や大学等の様々なチームとオープン戦を実施。試合の中で自分たちの足りない部分や弱い部分を修正し、良い部分は伸ばしていくことができました。

昨年のリーグ戦を振り返ると投手陣の活躍により失点を最小限に抑えることができていましたが、打撃陣があまり振るわないことが多々ありました。今年はより打撃の強化に重きをおいて野手陣の打撃強化に努めているので春のリーグ戦では投手陣はもちろんのこと、打撃陣にも注目してほしいです。特に打撃の中心となっているのは昨秋のリーグ戦で4番を打っていた三井佑真(法学部新4年)です。ベストナインにも選出され、チームでも上位の打率を残しており、高い出塁率にも注目です。今春はキャプテンとして言動でもプレー

でもチームを引っ張っていく姿に注目して欲しいです。

また、投手陣では土屋大和(法学部新4年)と、関口航太(法学部新4年)の2名にも注目してください。昨年のリーグ戦を引っ張った2人がオフシーズンを経て成長した最上級生としてのピッチングが見所です。

4月には春のリーグ戦が開幕します。チームとしてもなんとしても目標としている「1部昇格」を果たさなければなりません。2部優勝、入れ替え戦で勝利するためにもこのリーグ戦にかける思いはチーム一同、日々増すばかりです。チームとしてはミーティングの回数を増やし、意思確認や練習・試合での改善点について話し合いました。初めはなかなか意見が出ない時もありましたが、次第にミーティング内だけでなく練習中でも意見が飛び交うようになりました。このようにミーティングを増やしたことでチームとしていい風潮をつくることができました。

目標としている「1部昇格」に向けて一生懸命戦う選手たちのプレーする姿、勇姿を是非、球場に足を運んでみてください。



ダブルエースとして期待がかかる土屋大和(法学部新4年)



ドラフト候補にも名を連ねる関口航太(法学部新4年)

## ラグビー部男子

### 8シーズンぶりの1部リーグ戦 立正スタイルを貫き、5位と健闘



8シーズンぶりの関東大学リーグ戦1部に復帰したシーズンでしたが、開幕戦の日本大学戦からアタックもディフェンスも前に出続ける“立正スタイル”で善戦し、1部常連校の日本大学、東海大学を苦しめる試合展開が出来ました。リーグ戦3戦目の関東学院大学戦で初勝利する事で、自分達の戦い方に少しずつ自信を持ち、大東文化大学、法政大学に連勝し大学選手権出場が叶う状況になりましたが、流通経済大学に惜しくも1トライ1ゴール差の7点差で敗れてしまい、リーグ最終戦の東洋大学に勝てば、大学選手権出場という状況でしたが、東洋大学に敗れ大学選手権出場を逃してしまいました。来シーズンは、大学選手権出場を目標にチーム一丸となって日々のトレーニングに取り組みますので、来シーズンも応援よろしくをお願いします。

#### 戦績

関東大学リーグ戦1部 5位/8大学(3勝4敗)

リーグ戦1部ベストフIFティーン2名選出  
陣内源斗(社会福祉学部卒)、ウィルソン・ユアン(データサイエンス学部新3年)

3勝 法政大学(64対18)、大東文化大学(41対35)、関東学院大学(36対12)

4敗 日本大学(33対44)、東海大学(21対47)、流通経済大学(31対38)、東洋大学(21対34)

関東大学ジュニア選手権カテゴリ-3 1位(4勝0敗)入替戦●vs法政大学 Jr.(21対27)

4勝 (○東洋大学 Jr.(31対29)、○関東学院大学 Jr.(48対19)、○大東文化大学 Jr.(不戦勝)、○中央大学 Jr.(不戦勝))



日本大学を相手に善戦

#### TOPIC

中森隆太(社会福祉学部卒)がジャパンラグビーリーグワンのプロチームである三菱重工相模原ダイナボアーズとプロ契約を結びました。強豪チームでの活躍が期待されます。

#### 2023年度試合日程情報

2023年4月	リーグ戦セブンズ/東日本セブンズ
4月~6月末	関東大学春季大会
6月	関東大学ラグビーオールスターゲーム
9月~11月末	関東大学リーグ戦1部

## ラグビー部女子

### 国内外の大会が徐々に再開 学生、OGにも国際大会で活躍



ラグビー部女子は大学を始めとするたくさんの方々の支援を受け、少しずつ活動を再開しています。昨年まで中止や延期とされていた国内外の競技大会も少しずつ再開され、強化クラブの1つとしての活動も元の活気ある風景に戻りつつあり、日々のトレーニングに汗を流しています。

ラグビー部女子の目標は、選手それぞれが国際的に活躍する選手に少しでも近づき、本学から世界へ挑戦し続けることです。目標に対しての1つの成果としては、昨年度に開催された女子15人制のワールドカップ(ニュージーランド開催)は2名の学生と、3名の卒業生が日本代表に選出され出場しました。目標としていたワールドカップベスト8にはあと一步届きませんでした。本学を代表して世界の舞台上で躍動しました。

また、日本を代表する選手に近づく為に、国内女子15人制リーグ戦に本学ラグビー部の部員を主体としたチームを編成し挑みました。立正大学の選手を主体としたチーム編成で挑むのは初の試みであり、合同チームとしてのレベルアップが思うようにいかず、国内女子チームのランキング上位に食い込むことはできませんでした。

今年度も継続して挑戦し、部の目標に少しでも近づけるように部全体で活動していきます。

#### 2023年度新入生

・8名入学(データサイエンス学部5名、社会福祉学部3名)

伊藤仁那	データサイエンス学部	出身:麗澤高校(千葉県)
池田理花子	データサイエンス学部	出身:筑紫台高校(福岡県)
廣瀬翠	データサイエンス学部	出身:開志国際高校(新潟県)
鈴木麻瑠	データサイエンス学部	出身:東海大翔洋高校(静岡県)
村田美咲	データサイエンス学部	出身:京都成章高校(京都府)
大久保芽衣	社会福祉学部	出身:利府高校(宮城県)
吉水愛莉	社会福祉学部	出身:明和県立高校(群馬県)
山田晴楽	社会福祉学部	出身:深谷高校(埼玉県)

#### 国際大会の活動

- ・15人制日本代表  
土尾小町(社会福祉学部新4年)、吉村乙華(社会福祉学部新4年)、ほか卒業生3名
- ・7人制日本代表  
大谷芽生(2022年度社会福祉学部卒)、ほか卒業生3名

#### 昨年度の主な成績

- ・太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ(国内4会場開催)
- ・大学女子7人制交流大会(立正大学会場) 5位
- ・第76回国民体育大会(栃木県開催) 出身地都道府県にて12名出場
- ・関東女子15人制ラグビー大会(リーグ戦) 6位

#### 今年度の主な大会

- ・太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ(国内4会場開催)
- ・大学女子7人制交流大会(立正大学会場予定)
- ・第77回国民体育大会(鹿児島県開催)
- ・関東、全国女子15人制ラグビー大会



## 公式 Twitter&Instagram

#### サッカー部



Twitter



RISSHO\_SOCCER

#### 硬式野球部



Twitter



RISSHO\_BASEBALL

#### ラグビー部男子



Twitter



RISSHO\_RUGBY

#### ラグビー部女子



Twitter



RISSHO\_WOMENS\_RUGBY

## CIRCLE 2023

\ 学生生活を充実させよう! /

本学には100以上の様々な課外活動団体が活動しています。今回は、「映画製作部」を紹介します。

## CIRCLE INFO 映画製作部

## 「作りたい」や「見るのが好き」大歓迎 映画製作で非日常体験を!

映画製作部は、品川キャンパスの学生52人が在籍し、毎週木曜日と金曜日に品川キャンパスで活動しているサークルです。今回は、2022年度まで映画製作部で部長を務めた森真白さん（心理学部新4年）にお話を伺いました。

映画製作部の主な活動としては、脚本ごとにチームで分かれての映画制作や、四半期に一度の全体総会、長期期間での合宿等が挙げられます。今回は、この映画制作に焦点を当て、お話を伺いました。

映画一本を制作するには、平均3カ月前後、長いものでは半年から1年かかるものもあるそうです。たとえば、野外での撮影では天候に大きく左右されたり、制作過程では編集担当や監督のこだわりによって更に制作期間が伸びるそうです。

映画制作の魅力については、「脚本から演者・演出に至る全てを、部員みんなで一から自由に作り上げることができることです。カメラ映りを意識した役者の話し方や動き方、照明の当て方など日常では知

ることのできない経験ができます」と話してくれました。

2022年の制作作品は、企画作品・共同制作作品を含め10作品にも及び、現在は、大学の他団体との共同制作で、大学開校150周年記念作品を制作中とのこと。今から記念作成の完成が楽しみです。

映画製作部には、入部して初めて編集ソフトやカメラ・照明などの機材に触れる学生も多いと言います。そういった学生へ向けて、使い方セミナーも実施しているそうです。

最後に、サークルに興味がある方へ向けて、「映画製作部では、一年を通して、部員を募集しています。映画制作やカメラ、編集に興味のある方はもちろん、単に映画が好きの方も大歓迎です。興味のある方はぜひ、InstagramやTwitterのDMまでご連絡ください。また、他の団体の方との共同作品や撮影依頼などお待ちしております!」と締めくくってくれました。



インタビューに応じた  
映画製作部の森真白さん

## 2023年度 立正大学オープンキャンパス日程

## 来校型

開催日	開催地	時間	来校型イベント
6/18(日)	品川・熊谷	11:00~16:00	<b>■時間単位予約制</b> ①学部ブース・教員相談コーナー ②学部説明会・総合型選抜説明会 ③模擬授業 ④全体説明会・入試説明会 ⑤キャンパスツアー ⑥保護者説明会 ⑦低学年向けイベント
7/23(日)	品川・熊谷	10:00~16:00	
8/19(土)	品川	10:00~16:00	
8/20(日)	熊谷	10:00~16:00	
2024年 3/17(日)	品川・熊谷	10:00~16:00	<b>■時間単位予約制</b> ①学部ブース・教員相談コーナー ②模擬授業 ③全体説明会・入試説明会 ④キャンパスツアー

## WEB (サイトオープン 2023年6/1(木)14:00)

開催日	時間	WEB イベント
7/30(日)	10:00~16:00	<b>【7/30,9/3 LIVE配信】</b> ①オンライン個別相談・教員フリー相談会 ②学部説明会・総合型選抜説明会 ③大学説明会・フリー相談会 ④入試対策講座LIVE(9月のみ) <b>【常設】</b> ①大学説明・学部説明動画 ※6/18公開予定 ②入試説明・総合型選抜説明動画 ※7/23公開予定 ③模擬授業動画 ④入試対策講座
9/3(日)	10:30~14:30	
12/17(日)	時間未定	一般選抜対策講座

## 安否確認システム登録のお願い

本学では、自然災害や地震発生時に、在籍する学生の安全確保を目的とし、緊急連絡ならびに安否確認の手段としてセコムトラストシステムズが運営する「セコム安否確認サービス(e-革新)」を導入しています。

お問い合わせ 品川学生生活課 03-3492-6698 / 熊谷学生生活課 048-536-6012

パソコンでの登録やその他詳細については、『ポータルサイト> My ツール > キャビネット>3、学生生活支援>6、安否確認システム内の各種資料』を参照してください。

企業コード:01013(半角) パスワード:生年月日の下4ケタ(月日)  
ユーザーID:学籍番号(英字は大文字) (例)4月1日→0401



▶ 本紙へのご感想をお待ちしております!



「立正大学学園新聞」では皆さまからのご意見・ご感想を募集しております。

立正大学 検索  
www.ris.ac.jp



公式サイト



公式facebook



公式Twitter



モリスTwitter